



### 第3学期始業式 校長の話

新年、明けまして おめでとうございます。皆さんはどんな年を迎えたでしょうか。元日は大変穏やかな朝で始まりましたが、午後には大きな地震がありました。北陸地方を襲った大地震は津波や火災を引き起こし、多くの家屋が倒れ、けが人や命を奪われるという報道を目や耳にし、心が痛みました。私たちも他人事ではなく、いつ起こるか分からない災害への備えと心の準備を忘れてはならないと強く感じました。

新年を迎えるにあたり、あらためて考えたことがありました。それは「話をきく」です。日頃の授業や活動の中で、話をきく場面は多くありますが、「きく」を漢字で表すと「聞く」と「聴く」があります。特にこちらの「聴く」には文字に込められた願いがたくさんあるように思います。「聴く」を分解してみましょう。どんな文字が集まっているのでしょうか。まず、耳へんですね。「耳」という文字を見つけることができます。次に「心」の文字があります。そして、よく見ると「目」が横たわっていますね。つまり「聴く」は目と耳と心を組み合わせてできているわけです。残っている「十」も見方を変えると「耳+目+心」で聴くことが本当の「きく」になることを教えてくれているのではないのでしょうか。しかし、話を聴くということは難しいことでもあります。例えば、相手の話を聴いているうちに自分の答えが浮かんでくると、途中で自分の話をしたくなってしまふことがあります。相手の話をさえぎってしまうと、その人の言いたいことが分からなくなってしまいます。また、話を聴いているうちに他の

プランターに咲き始めたパンジーの花



事を考えてしまうと話が分からなくなってしまい、しっかりと聴けなくなってしまいますね。ですから、話を最後まできちんと聴けるということは実はとても立派なことだと思っています。

「学ぶことは きくこと」という言葉があります。何か自分で新しいことを学ぶ(知る)には、まずは話にしっかりと耳を傾けて聴くことが大切であるということを意味しています。そして、聴くことは自分で考える力を高めます。新しい年の始まりにあたり、ぜひ、「聴く」に力を入れていただき、大いに学んでいきましょう。



人文字で描いた校章と虹（航空写真より）